

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度 技術情報第35号（カンキツのミカンハダニ）について（送付）

カンキツのミカンハダニについて、下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>）にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第35号

県本土・熊毛及び奄美地域の巡回調査（3月）において、ミカンハダニの発生が多い状況です。今後も増加しやすい気象条件が続くと予想されており、春葉や幼果での被害が懸念されるため、ほ場を見回り、発生初期の防除に努めてください。

1 対象病害虫 ミカンハダニ

2 対象作物 カンキツ類

3 発生状況及び情報の根拠

- （1）3月の旧葉調査におけるミカンハダニの発生ほ場率は、県本土・熊毛地域が32%（平年13%）、奄美地域が43%（平年10%）と両地区とも平年より高く、過去10年間で最も高い（表1、図1）。
- （2）寄生葉率は県本土・熊毛地域1.3%（平年1.7%）、奄美地域5.3%（平年0.9%）で奄美地域のタンカンで発生程度の高いほ場が認められた（表1）。
- （3）2月以降、平年に比べて気温は高く推移しており、今後の1か月予報（3月19日発表）においても、県本土・熊毛、奄美地域ともに気温は高く、ミカンハダニが増加しやすい気象条件が続くと予想される（表2）。

4 防除上注意すべき事項

- （1）1葉当たり雌成虫数0.5～1.0頭（寄生葉率30～40%）を目安に地域の栽培歴等を参照して防除する。また、薬剤抵抗性を生じさせないため、同一系統、同一薬剤の殺ダニ剤の使用は年1回とする。
- （2）冬季用マシン油乳剤（95%）を散布していないほ場や、殺ダニ剤の効果が低下したほ場では、今後、多発することが懸念されるため、物理的な殺虫作用が高い夏季用マシン油乳剤（97%）を散布する。
- （3）ただし、夏季用マシン油乳剤は散布後に、油浸斑の発生や光合成低下等による果実品質への影響が懸念されることから、高温時の使用を避ける。そのため、使用時期は、県本土では温州6月上旬～7月上旬まで、中晩柑類7月下旬まで、熊毛・奄美地域の中晩柑類は梅雨明けまでとする。
- （4）農薬の使用にあたっては、使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散を防止する

5 参考データ

地域 (品 種)	調査ほ 場数	発生ほ場率 (%)		発生程度 (%)					寄生葉率 (%)	
		本年	平年	甚	多	中	少	無	本年	平年
本土・熊毛 〔温州・甘夏・ ホンカン・タンカン〕	30	32	13				32	68	1.3	1.7
奄美 (タンカン)	7	43	10		14	29	57		5.3	0.9

表1 ミカンハダニの旧葉における地域別発生状況(3月中旬)

注1) 調査日：県本土・熊毛（令和8年3月9日～17日）、奄美地域（令和8年3月6日～13日）

注2) 平年：平成28年～令和7年の10年間の平均値

注3) 調査ほ場

県本土・熊毛：30地点 温州8（南薩2、北薩2、日置2、始良2）、甘夏10（北薩10）、ホンカン4（熊毛4）
タンカン8（南薩4、熊毛4）

奄美地域：タンカン7（名瀬3、住用2、瀬戸内2）

注4) 発生程度（寄生葉率） 甚：81以上、多：61～80、中：31～60、少：1～30（100葉調査）



図1 ミカンハダニの発生ほ場率と旧葉での寄生葉率の年次推移（県本土・熊毛）

地域	観測地点	平均気温(°C)			降水量(mm)		
		本年	平年	平年差 ¹⁾	本年	平年	平年比 ²⁾
南薩	加世田	13.2	10.5	2.7	130.5	120.2	109%
北薩	阿久根	12.3	9.9	2.4	105.0	92.0	115%
熊毛	尾之間	15.5	13.2	2.3	105.5	291.5	36%
奄美	名瀬	17.6	16.0	1.5	56.0	143.6	39%

表2 県内の2月第4半旬～3月第2半旬の平均気温と降水量

1) 平年差は調査期間の本年と平年の半旬値の差を平均した数値

2) 平年比は調査期間の降水量の合計値について本年を平年で除した値